

序説	生命思想史の中で	3
----	----------	---

ペルガモンのガレノス	29
------------	----

ペルガモン王国	31
激動の中のローマ帝国	34
ペルガモンの反乱	38
ペルガモンのガレノス	40
ガレノスの初期論文	43
ガレノスの実像を求めて	46

ガレノスの思想の源流	51
------------	----

万物の生滅流転	53
ミレトスのタレーズ	56
アナクシマンドロスの「無限なるもの」	60
アナクシメネスの「空気」の稀化濃化	64
ヘラクレイトスの「火」と「ロゴス」	66
エンペドクレスの四つの根元	68
エンペドクレスの生理学思想	71

アナクサゴラスのヌース	75
ピュタゴラスの数の哲学	77
ピュタゴラスの秘密教団	80
ピュタゴラスの徒	84
アルクマイオン、ディオクレス、プラクサゴラス	88
デモクリトスの原子論	92
古代の宇宙地球論	97
アトムと空虚と	102
コス島のヒポクラテス	105
古代ギリシアの医療集団	110
ヒポクラテス全集の秘密	118
アスクレピオス信仰からの解放	131
二千年前の診療記録	140
論敵に挑む	153
背後なる宇宙	167
プラトンの小宇宙論	178

靈魂と自然	193
-------	-----

ガレノスが掲げた旗印	195
アリストテレスの前半生	198
プラトンのアカデメイア	201

イデア学説から離れて	204
デーミウルゴス説を批判	207
アイテール	212
神から自然へ	215
温冷乾湿とその背景	217
イデアと形相と	220
第一質料と自然	224
神と力(デュナミス)と	226
自然科学者として	230
プラトンの第三の魂	232
光と視覚をめぐって	241
アリストテレスの四つの原因	246
靈魂の中核と内在熱	253
靈魂と肉体	262
リュケイオンの創設	267
アレクサンドリアの科学	270
プラクサゴ、エプソスとヘロドロス	274
ヘロドロスの医学	279
ギリシアの視覚論	285
眼の解剖学	292
生殖解剖学	298
アリストテレスとスペルミナ	304

統御力をめぐる論議

アリストテレスの転化論	311
統御中核をめぐって	316
ストア学派のクリュシッポス	320
ガレノスのクリュシッポス批判	326
「ヒポクラテスとプラトンの学説について」	332
心臓への侵襲	339
神経の起始について	343
空虚論	348
靈魂の座は心臓か脳か	350
ヘロドロスの業績	360
古代ギリシアの呼吸循環論	364
古代ギリシアの空虚論	377
プラトンとアリストテレスの空虚論	381
濃密化と稀薄化	386
空虚再充填説	390
ローマにおけるガレノスの診療	392
三大学派の争いの中で	398
動物による解剖学と人体解剖	405
ガレノスの解剖学的目的	414
靈魂の欲望部分	420

膜による伝播に反論	424
靈魂の三分説	426
靈魂の統御手段としての精神 Pneuma	430
人間を支配する諸力——自然力の構想	434
靈魂の統御と視覚機構	436
卓越した変質と同化の概念	447
視覚構造論にみる先駆的な科学精神	451
靈魂の統御力と自然力の支配の実相	466

諸学派の抬頭と抗争

ケルソスの「医学について」の中の学派論	477
ガレノスの語る学派論	501
諸学派の系譜	504
ガレノスの方法学派への攻撃	511
ローマでのガレノスの名声と争い	518
瀉血をめぐる病理学論争	520
二世紀のローマの実地医療	523
エラシストラトス学派との激論	527
古代ローマの瀉血論	529
エラシストラトスの動脈内血液流入炎症説	536
ガレノスの左心室内血液存在論	543

ガレノスの栄養残渣説	546
プラトンの周り押し説と腐敗物	552
アリステテレスの内熱と栄養過剰物	555
過多の排出	559
ガレノスの脈搏論とその背景	562
動物内に血液は存在するか	567
ガレノスの論理学的攻撃	571
精気論と動脈内血液存在論の間で	575
論争と激昂	579
真正な原点を見つめて	582

あとがき	595
主要参考文献	605
索引	642

【付表】

ギリシア・ローマ医学哲学者のおよその活動年代図
ガレノス関係地図